

と云ふとあるを思ふに當國のト部の祖神を祭れる社ならんかさらば天兒屋命雷大臣命を祭れるかされど此神たちを天諸羽命と申せる證もなければ今は姑く延喜式に従へ

神位 滅和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授ミ對馬島天諸羽神從五位上

祭日 一月四日

社格 村社

所在 惠古村字堂(佐護村字堂)(上縣郡佐護村)

天神多久頭麻命神社

祭神 多久都玉命

今按本社祭神多久頭麻命は姓氏錄爪工連神魂命子多久都玉命二世孫天仁木命之後也とみえたる多久都玉命同神にて神魂命の御子神なる事著し故今定めて記しつ

神位 滅和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授ミ對馬島天多久神麻神從五位上

祭日 十一月一日

社格 鄉社

所在 渡村字道(佐護村字道)(上縣郡佐護村)

宇努刀神社

祭神 須佐之男命

都麻神從五位上

祭日 六月朔日

社格 村社

所在 三根村字天良(上縣郡峯村大字三根)

那須加美乃金子神社

祭神

今按長崎縣式内社記に祭神須佐之男命大屋彥命ミありて由緒書に素盞鳴命五十猛命を率ゐ八十木種を持ち韓國曾

戸茂利の地に併き其地には植させ玉はすて此山に植玉ふとある時は此祭神よしなきにあらねど那須加美乃金子神

と云神は此二神にはあるべからず姑附て考に備ふ

神位 滅和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授ミ對馬島奈蘇上金子神從五位上

祭日 六月十五日

社格 村社

所在 小鹿村字那須(上縣郡小鹿村)

伊奈久比神社

祭神 大歲神

今按本社由緒書に上古海神神社を伊豆山に祭祀の時白鶴稻穂を含み空より來て榎田に落す里人其穂を取て榎田に植て御食ごし榎田を以て神田ミす故に伊奈ミ云り榎田は志多曾村にあり鶴の稻を落せし所は伊奈の原なり其處を

れどもとは鶴草曹不令命一座にてますを和多都美の名に

今按本社由緒書に神功皇后新羅征伐より凱還の時上縣郡

豐村に著せ玉ひて島大國魂神社を拜し同郡佐賀村に著御す此地にも大國玉神社の神靈を分ちて皇后親ら祭り玉ふ是宇努刀神社なりと云り附て後考に備ふ

神位 滅和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授ミ對馬島宇努神從五位上

祭日 六月十五日

社格 村社郷社八幡宮境内にあり(村社)

所在 今屋敷村字清水山和多都美(下縣郡中町郷社八幡宮境内)

今按式内社記に古は上縣郡佐賀村にありしを延徳三年六月十四日下縣郡嚴原清水山鎮座和多都美神社境内に遷し奉ると云り

今按長崎縣式内社記に祭神建比良爲命とあるは古事記に天菩比命之子建比良島命云々津島縣直云々之祖也とみえたるによりて云る說と聞ゆれど小枚宿禰命と云神名ある

上は建比良島命にあらざる事明けし故今式文によりて記せり

神位 滅和天皇貞觀十二年三月丁巳授ミ對馬島小枚宿禰神從五位上

小枚宿禰命神社

祭神

今按長崎縣式内社記に祭神建比良爲命とあるは古事記にひ奉る云々とあるは倭姫命世記にみえたる保於止志神の古事に似たるより大歲神と云るならんミも思はるれど士人ミ傳説も弃かなければ姑く社説に従ふ

今按明細帳長崎縣式内社記に祭神邇々藝命とあれさいかなる由ありて祭られ給へりと云事詳かならねば信がたし姑附て考を俟つ

神位 滅和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授ミ對馬島行相神從五位上

祭日 六月九日

社格 村社

今按明細帳長崎縣式内社記に祭神邇々藝命とあれさいかなる由ありて祭られ給へりと云事詳かならねば信がたし姑附て考を俟つ

神位 滅和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授ミ對馬島行相神從五位上

祭日 九月九日

社格 村社

所在 田村字氏(下縣郡田村)

和多都美御子神社

名神

今按長崎縣式内社記に祭神豐玉昆賣命鴟草曹不令命とあるがもとは鴟草曹不令命一座にてますを和多都美の名に